

# 内分泌代謝学特論（青木 一孝）

Advanced Course of Endocrinology and Metabolism (Kazutaka Aoki)

## キーワード

- ① 内分泌代謝学
- ② 内部環境の恒常性維持
- ③ 内分泌疾患
- ④ 酵素免疫測定法
- ⑤ 代謝疾患

## 関連する学位授与方針

DP(ディプロマポリシー)

- ①,②,③,④,⑤

## 関連する教育実施方針

CP(カリキュラムポリシー)

- ①,②,③,④,⑤,⑥

## 授業概要

外部環境の変化に対して、生体の内部環境の恒常性を維持することは生命の正常な維持にとって重要である。内部環境の恒常性維持は、生体内の液性因子調節機構である内分泌系と、神経系の二つが大きな役割を担っている。様々な内科疾患は内部環境恒常性維持の破綻であると理解され、多くの液性因子が関与している。従って、内分泌代謝学は生命現象の解明のみでなく、疾患の解明と治療法開発に繋がるので重要である。そこで内分泌代謝学の基礎を学ぶことにより研究者、教育者として発展性のある医療人育成を目的として開講する。

## 授業科目の学修目標

内分泌代謝学は生体の恒常性維持を担う内分泌系の正常機能と、内分泌疾患のみならず内科疾患全般の病態生理を解明する学問である。内分泌代謝学特論、ホルモン測定の基本を理解することにより、内分泌代謝学のみならず疾患解明のための基本的考え方と方法論を身につけ発展性のある医療人となることを学修目標とする。

## 授業計画

- ① 内分泌代謝学特論：内分泌代謝学の基本的な考え方を身につけるため主要英文原著論文を用い総論を講義する。  
20コマ 青木一孝
- ② ホルモン測定：ホルモン測定には酵素免疫測定法を始めとした検査が必要であり、その原理について講義する。  
5コマ 青木一孝
- ③ 恒常性の維持：内分泌系は恒常性維持を担っており、その破綻が疾患である。この恒常性維持の破綻を通して疾患発生機序を理解するとともに前提としての医療倫理と医療安全を講義する。  
5コマ 青木一孝

## 教科書および参考書

内科学 第12版 矢崎義雄 総編集 朝倉書店

## 履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

内分泌代謝学特論では授業項目と内分泌代謝領域で発表された主要英文原著論文を熟読し、理解することが求められる。内分泌代謝診療を含めた内科診療では正確な知識、技能のみでなく高い医療倫理性と医療安全を求める。

## 大学院生が達成すべき行動目標

- ① 内分泌代謝学の総論を理解し、内分泌代謝疾患の病態生理、主要症候および検査所見、診断学を説明できる。
- ② ホルモン測定および主要英文原著論文の内容の理解により内分泌代謝疾患の診断と治療計画を立てることができる。
- ③ 恒常性の維持について学び、疾患発生機序を説明でき、かつ医療倫理と医療安全を理解し実践できる。

## 評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	40%	0%	0%	20%	0%

## 評価の要点

- ・試験は、特論で行った講義の知識の理解度を判定する。計40%
- ・レポートは、履修に用いた主要英文原著論文の要約を提出する。計40%
- ・口頭試問は、授業終了後、毎回行い知識の理解度を判定する。計20%

## 理想的な達成レベルの目安

内分泌代謝学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。内分泌代謝学特論を通して身につけるべき医療倫理と医療安全は100%を求める。